



2021年8月25日

各位

会社名 株式会社早稲田アカデミー  
 代表者名 代表取締役社長 山本 豊  
 (コード番号 4718 東証第一部)  
 問合せ先 取締役常務執行役員 河野 陽子  
 管理本部長  
 TEL 03-3590-4011

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年5月10日に公表しました2022年3月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 連結業績予想について

(1) 2022年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 13,323	百万円 460	百万円 462	百万円 245	円 銭 13.01
今回発表予想(B)	13,712	827	825	496	26.36
増減額(B-A)	388	367	362	251	—
増減率(%)	2.9	79.8	78.2	102.6	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	11,943	332	338	96	6.08

(2) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 27,633	百万円 1,217	百万円 1,219	百万円 672	円 銭 35.68
今回発表予想(B)	28,370	1,591	1,587	925	49.09
増減額(B-A)	737	373	368	252	—
増減率(%)	2.7	30.7	30.2	37.6	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	25,453	1,064	1,077	529	33.13

## 2. 個別業績予想について

(1) 2022年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2021年4月1日~2021年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 12,553	百万円 506	百万円 328	円 銭 17.45
今回発表予想(B)	12,932	846	562	29.84
増減額(B-A)	378	339	233	—
増減率(%)	3.0	67.1	71.0	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	11,254	511	319	20.17

(2) 2022年3月期通期個別業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 26,075	百万円 1,249	百万円 769	円 銭 40.79
今回発表予想(B)	26,796	1,596	1,006	53.36
増減額(B-A)	720	346	236	—
増減率(%)	2.8	27.8	30.8	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	23,985	1,195	733	45.91

## 3. 修正の理由

第2四半期連結累計期間につきましては、既存校、夏期開校の新校3校(品川校、豊洲校、早稲田アカデミー個別進学館豊洲校)ともに、好調な集客状況が継続していることに加え、現在開催中の当社夏期講習会についても、計画を大きく上回る5,000名に迫るほどの新入生・一般生の皆様にお申込みをいただいております。このような状況を反映した結果、売上高につきましては前回予想を上回る見通しとなりました。

また、原材料費・労務費等が当初予算を上回る一方、広告宣伝費・販売促進費・通信費等が計画を下回る見込みとなったことから、利益についても上方修正いたします。

通期業績につきましても、現状の新規問合せや集客の動向、現時点で予測されるコロナ禍の影響等を踏まえて9月以降の塾生数予算を精査するとともに、塾生数に連動する変動費用、従業員賞与の支給水準、校舎物件にかかる設備関連費用等を見直した結果、修正が必要と判断いたしました。

なお、現在、新型コロナウイルス変異株(デルタ株)の急激な感染拡大が続き、コロナ禍収束の目途が立たない厳しい状況が続いているところですが、当社グループにおきましては、今後も、生徒・保護者の皆様と従業員の安全を最優先としつつ、「対面授業」と「双方向Web授業」により、お客様から求められる授業サービスを継続的にご提供していくことを前提に、上記予想数値を策定しております。

(注) 上記予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上